

さほがわ みずべ がっこう 佐保川「水辺の楽校」の今

かすがやまげんせいりん げんりゅう
春日山原生林を源流とする佐保川は、東大寺とうだいじの北から奈良の町を通りぬけ、南へ流れていきます。佐保川は、1940年代ぐらいまで、洗い物やせんたくなど、人々の暮らしとは切りはなせないものでした。しかし、家がふえ、家庭はい水で川の水がよごれ、川で遊ばなくなっていました。



そこで、地いきの自治会と佐保川小学校などが市や県にお願いし、1999年10月に「水辺の楽校」が実現しました。

「水辺の楽校」ができて

ゆたかな自然のある水辺として、子どもたちの遊びと自然しぜん体験たいけんの場とするために、自治会や佐保川小学校、PTA、奈良市、奈良県は、力を合わせて、川の整備を進めています。



自治会の清掃活動

自治会の人々は毎月1回、佐保川小学校の子どもたちは毎週1回、川のそうじをしています。水辺の楽校ができてから、土手にすてられるゴミが少なくなりました。

土手には草がはえ、さまざまな生き物のすみかとなっています。カマツカなどがふえ、川の魚のしゅるい種類もふえました。

小学生は

低学年は、水辺の楽校で水遊びや生き物さがしをしています。4年生は、理科の学習で水辺の楽校の土手の植物や生き物を、1年間調べています。



水辺の楽校で水質調査

5年生は、水辺の楽校と、春日山原生林の佐保川の源流げんりゅうで、水生生物の調査や水質調査すいしつちようさをしています。



佐保川源流で水質調査

学校の学習だけでなく、子ども達たちは、気軽に水辺の楽校で遊ぶようになりました。

地いきのくらしを豊かに

近所の人々が水辺の楽校の清掃せいそうをし、お花見をするようになりました。年に数回、水辺のコンサートが行われます。

ゲンジボタルが食べるカワニナという貝がふえてきました。上流の東大寺の近くのように、ゲンジボタルがまう川にするのが、みんなの願いです。



桜まつりでのコンサート